

高岡町文化財調査報告書第1集

く き の ち か しき おう けつ ぼ  
久木野地下式横穴墓

1991. 3

ひがしもろ かた ぐん たか おかちょう  
宮崎県東諸県郡高岡町教育委員会

高岡町文化財調査報告書第1集

く き の ち か しき おう けつ ぼ  
久木野地下式横穴墓

1991. 3

ひがし もろ かた ぐん たか おか ちょう  
宮崎県東諸県郡高岡町教育委員会

正 誤 表

ページ	行	誤	正
例言	6	竹之山 寛	竹之山 寛
6	第4図	1号地下式	2号地下式
7	3	無肩、形の	無肩の袋状
7	9	2、2cm 前後	2.2cm 前後
8	第6図	2号地下式	3号地下式

## 例 言

1. 本書は、昭和59年5月29日から31日までの期間に、高岡町教育委員会が実施した久木野地下式横穴墓の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は宮崎県東諸県郡高岡町大字浦ノ名4992番地ロ号である。
3. 調査組織は次のとおりである。

調査主体	高岡町教育委員	
	教育長	竹之山 寛
	社会教育課長	赤崎 武男
	社会教育係長	水谷 泰三
	(担当)	有岡 浩一
調査員	宮崎県教育庁文化課主任主事	永友 良典

4. 本書の執筆・編集は永友が担当した。
5. 地下式横穴墓の号数については昭和47年調査分の地下式横穴墓（「宮崎県文化財調査報告書第17集」掲載）を1号とし、今回調査した2基を発見順に2号、3号とした。

## 目 次

第1章	調査の経過	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	位置と環境	1
第2章	調査の結果	5
第1節	調査の概要	5
第2節	2号地下式横穴墓	5
第3節	3号地下式横穴墓	7
第3章	ま と め	9

## 挿 図 目 次

第1図	分 布 図	2
第2図	地 形 図	3
第3図	久木野地下式古墳実測図（1号地下式横穴墓）	4
第4図	2号地下式横穴墓実測図	6
第5図	2号地下式横穴墓出土遺物実測図	7
第6図	3号地下式横穴墓実測図	8

## 図 版 目 次

図版1	調 査 風 景	11
図版2	2号地下式横穴墓竪坑	12
	2号地下式横穴墓玄室	12
図版3	3号地下式横穴墓竪坑	13
	3号地下式横穴墓玄室(1)	13
図版4	3号地下式横穴墓玄室(2)	14

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

久木野地区では昭和47年に農道開削中に地下式横穴墓が1基（1号）発見されている。今回報告の2基（2号・3号）は、その南約400mの高岡町大字浦ノ名4959の2番地に所在する地下式横穴墓である。

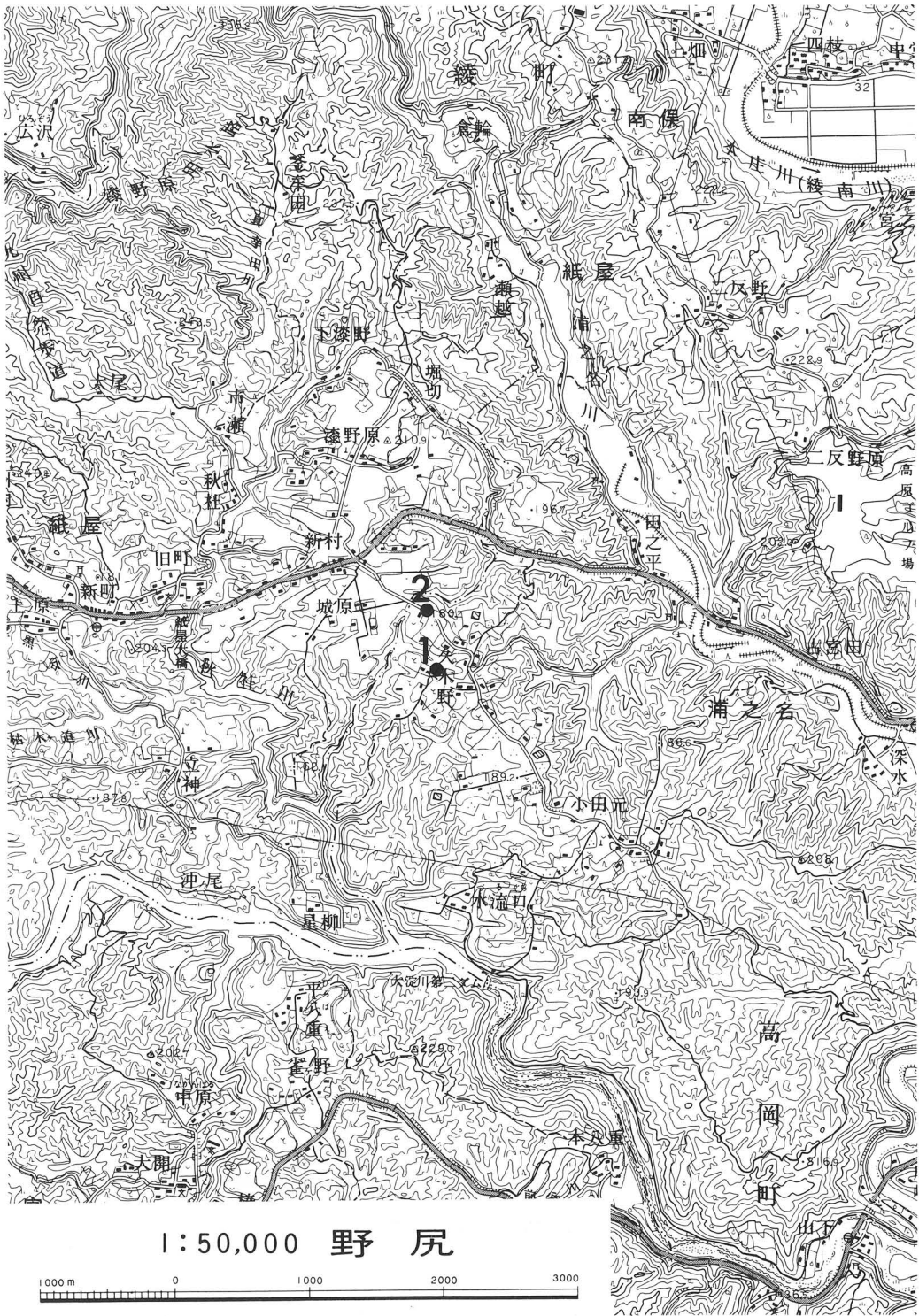
昭和59年5月、牛舎建設に伴う飼料用貯蔵穴掘削中に地下式横穴墓の玄室が陥没して人骨と鉄斧や管玉などの副葬品が発見された。地下式横穴墓発見の連絡を受けた高岡町教育委員会では現状の保存を指示し、県教育委員会と連絡を取り遺跡の取り扱いについて協議を行ったが、現状では保存が困難なため、記録保存の処置を取ることとなった。調査は高岡町教育委員会が主体となり県文化課に調査員の派遣を依頼し永友良典主任主事の担当で昭和59年5月29日から31日の3日間行われた。

## 第2節 位置と環境

遺跡は、町の西部、野尻町に接する大字浦ノ名字久木野に所在する。標高約180mの漆野原台地から東側に延びる高岡町側の台地に位置する。大淀川左岸に当たる。南西側には大淀川の支流である秋社川が流れ、川面からの比高差約50mを測る開析谷を形成している。久木野地下式横穴墓群は谷を隔てて北に47年調査の1号、南に今回報告の2号・3号と2箇所に分れて分布が見られる。

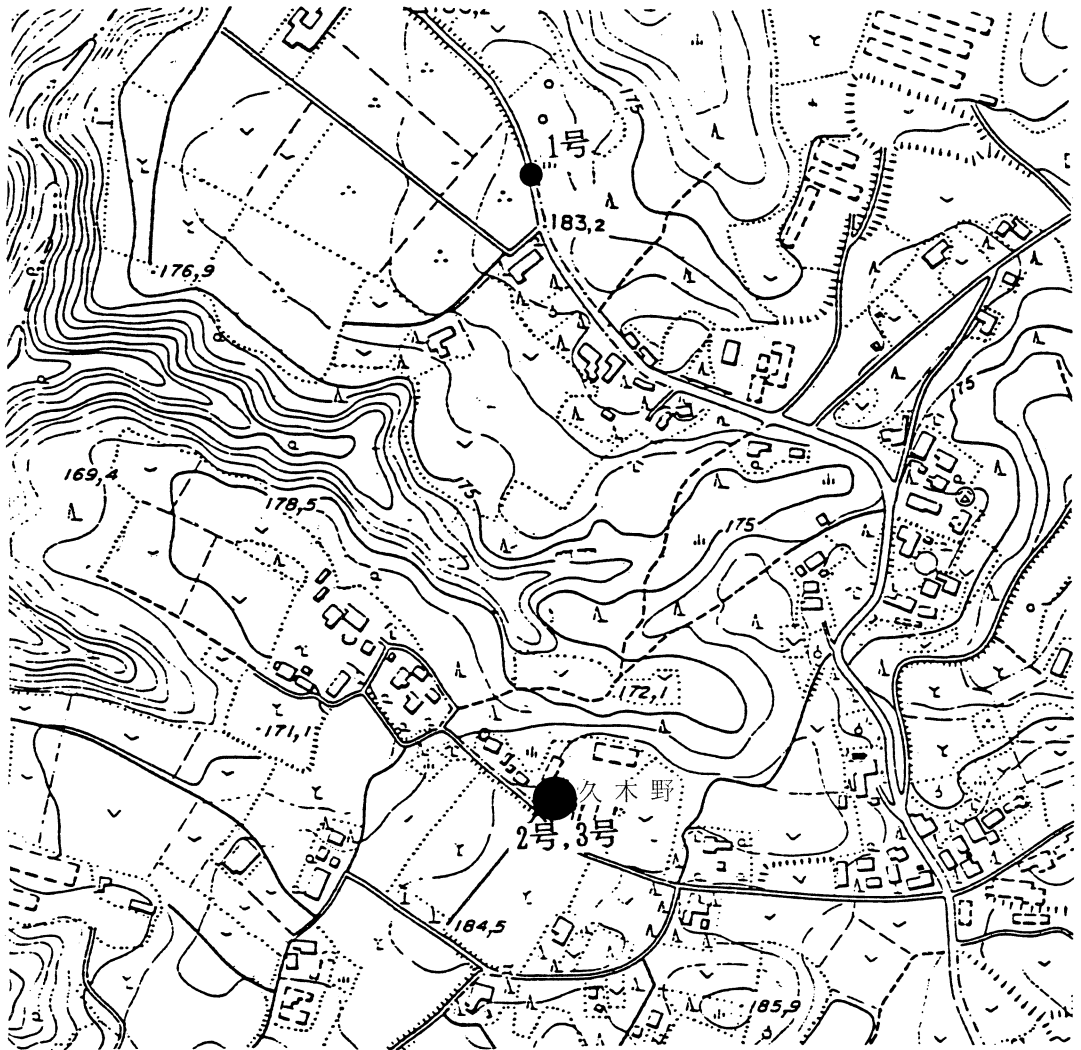
1号地下式横穴墓は、玄室が長方形プランで切妻造りの家形を呈する。中央のやや西寄りに長さ約180cm、幅約40cm、深さ約10cmの屍床が設けられている。また、左右の壁と屋根との接点部分に幅6cm程度の棚状施設が設けられている。人骨や遺物は既に取り上げられていたが、剣2本、直刀1本、鉄鏃13本が副葬されていた。剣には鹿角の付着も見られた。また、頭蓋骨や大腿骨等の一部が残っていた。

周辺での遺跡の分布は、高岡町内では顕著な遺跡は確認されていないが、隣接する野尻町側の漆野原台地には先土器時代から縄文時代早期にかけての遺跡である新村遺跡・高山遺跡・城原遺跡などが分布している。また、中世山城の紙屋城跡遺跡からは弥生時代後期の花弁状住居も発見されている。古墳時代の遺跡としては、茶屋原で地下式横穴墓が確認されているが詳細について



第1図 分布図

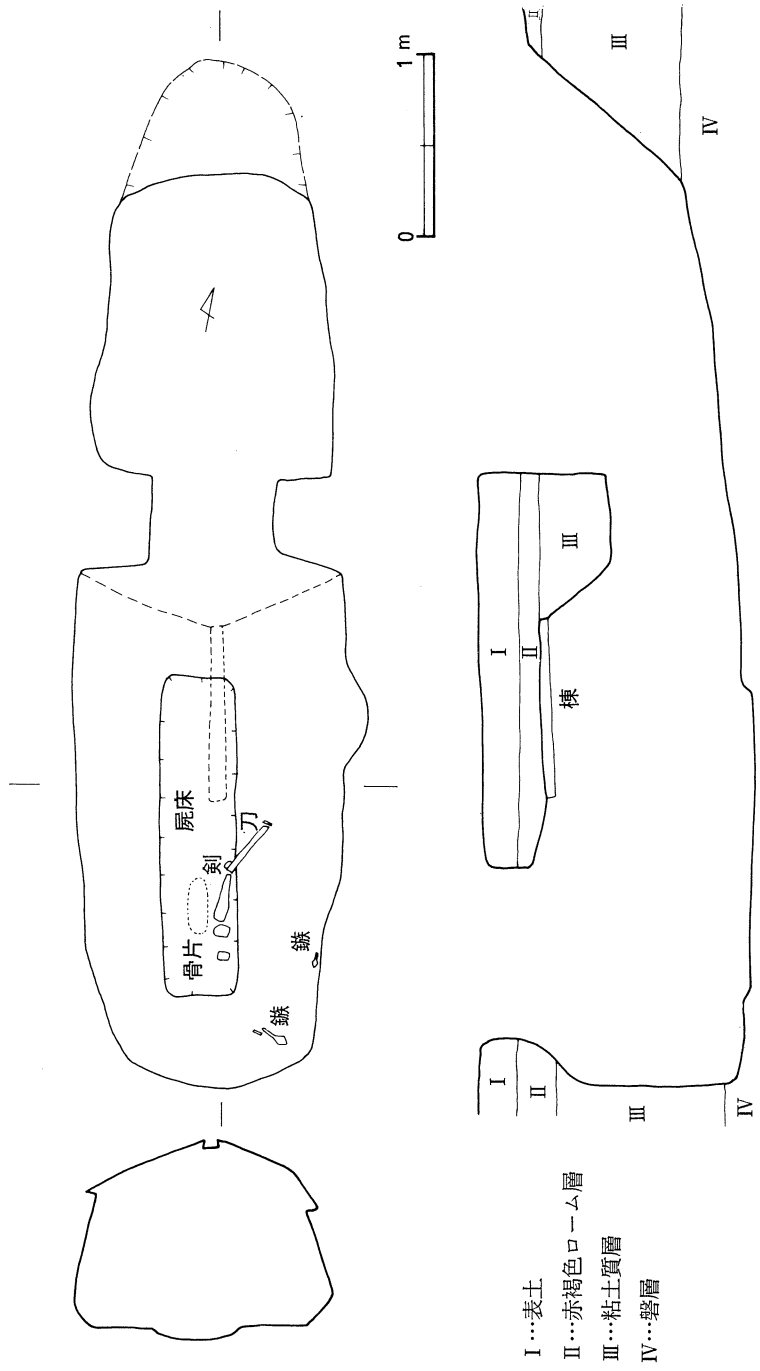
1. 久木野地下式横穴墓群B地区（今回調査）
2. 久木野地下横穴墓群A地区（1972年調査）



第2図 地形図(1:10000)

は不明である。周辺での地下式横穴墓の分布は、茶屋原地下式横穴墓以外見られないが北側に隣接する綾町南俣の綾南川左岸には内屋敷地下式横穴墓が、更に北側の綾町入野の北川左岸には四反田地下式横穴墓がそれぞれ分布する。





第3図 久木野地下式古墳表測図（1号地下式横穴墓） 文献1よりトレース

## 第2章 調査の結果

### 第1節 調査の概要

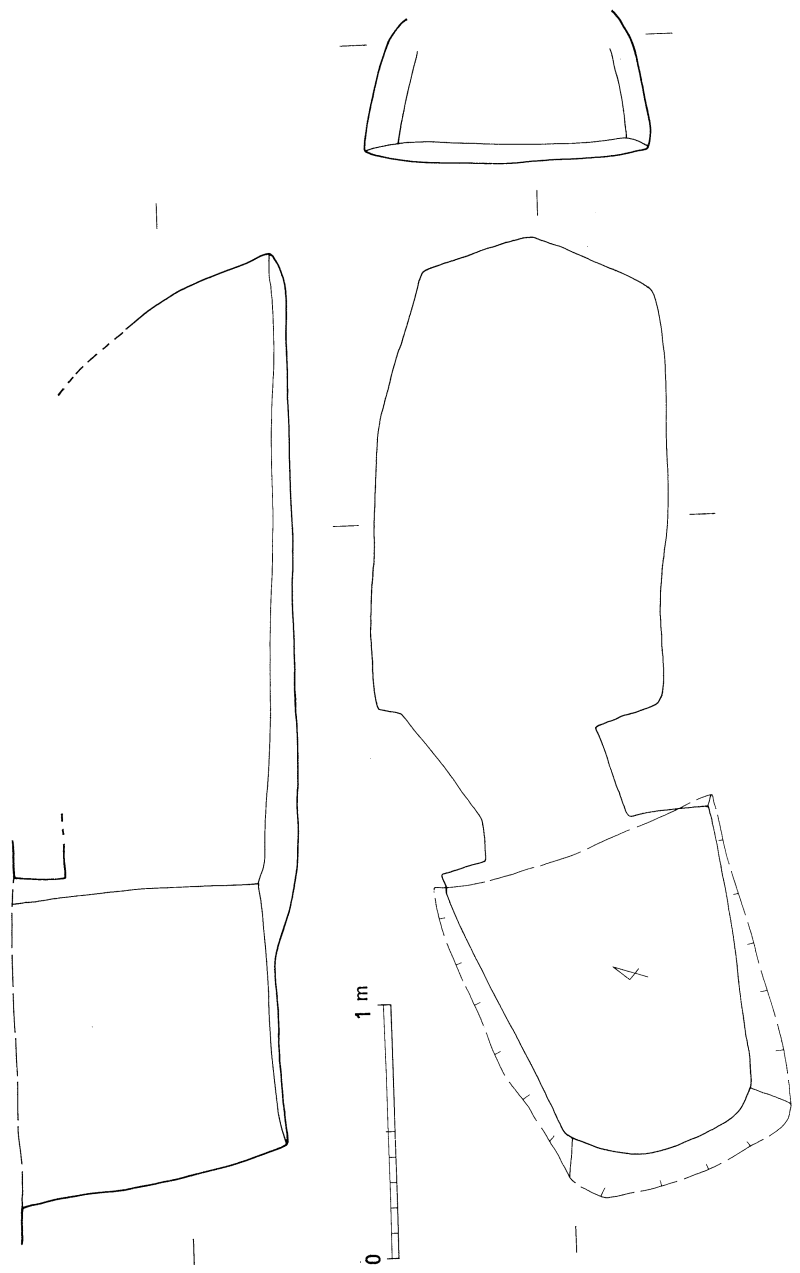
地下式横穴墓確認のきっかけになった飼料用の貯蔵穴は、牛舎の西側に南北方向に幅3m、長さ30mの規模で掘られていた。陥没した地下式横穴墓は貯蔵穴の北端で確認された。玄室は天井部がほとんど陥没しており遺物も発見時に既に取り上げられていた。調査は、陥没した地下式横穴墓の玄室の精査と竪坑の検出を合わせて行った。玄室の精査の結果、床面から更に小玉数点を発見した。竪坑は陥没した玄室の西側に確認されていたため竪坑上部を精査して検出した。

一方、貯蔵穴の法面で竪坑と思われる掘り込みが5カ所確認されていたため、貯蔵穴の床面の精査を行ったところ南端で地下式横穴墓の竪坑の掘り込みを確認した。そのため、北側の地下式横穴墓を2号とし、南側の地下式横穴墓を3号として調査を継続することとした。3号地下式横穴墓は、玄室内に土が充満していたが天井は陥没しておらず、床面から鉄片が検出された。

### 第2節 2号地下式横穴墓

#### 1. 遺構

2号は玄室の天井が陥没して発見された地下式横穴墓である。玄室は長方形プランの妻入りの構造で、玄室天井はアーチ型を呈する。両袖を有するが左袖は明瞭ではない。玄室の規模はほぼ190cm×115cmで奥壁がやや尖り気味であるが長方形プランを呈する。天井部は発見時の陥没で形状は明確ではないが、側壁の立ち上がり等からアーチ状の天井部が考えられる。床面からの高さは約80cmと推測される。羨道は奥行き40～50cm、幅約56cm、高さ約90cmを測る。竪坑床面から約10cm程下がり玄室床面へ続く。竪坑は主軸をN-48°-E方向に持つが、玄室の主軸はN-78°-Eとおおよそ30°東に振れる。竪坑は130×110～75cm、掘り込み面からの深さおおよそ115cmを測る。遺物は鉄斧1、管玉8、小玉8～9点の副葬品と人骨が見られた。このうち鉄斧と管玉さらに小玉1については発見時にすでに取り上げられていたため出土状況について詳細は不明であるが、出土状況のメモによると、人骨は玄室左壁側の奥壁付近を中心に中央部にかけて見られた。管玉と小玉の玉類は右壁際の中央部付近に固まって見られた。また、鉄斧も玉類より30～40cm奥壁方向に行った右壁際で出土している。さらに、調査時の玄室床面の精査の際にも玉類の出土地点と思われる付近から小玉8点が検出された。



第4图 1号地下式横穴墓实测图

## 2. 遺物

### (1) 鉄斧

右壁際奥壁付近で無肩、形の鉄斧1本を検出している。全長15.5cm、刃部幅5.5cmを測る。刃部は錆のため厚く膨らんでいる。袋部の形状から手斧的な装着方法が考えられる。

### (2) 玉類

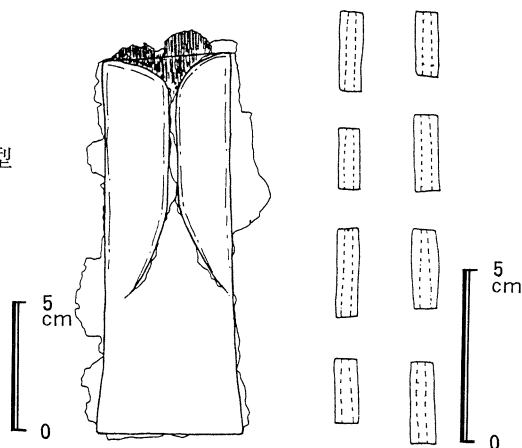
右壁際中央部付近で管玉8個、小玉8個の計16個の玉類を検出している。

#### ・管玉

径5mm前後の管玉で長さが2、2cm前後の大型のものと、1.8cm前後のやや小形のものが見られる。

#### ・小玉

高さ2mm前後、幅3mm前後の小玉である。



## 第3節 3号地下式横穴墓

第5図 2号地下式横穴墓  
出土遺物実測図

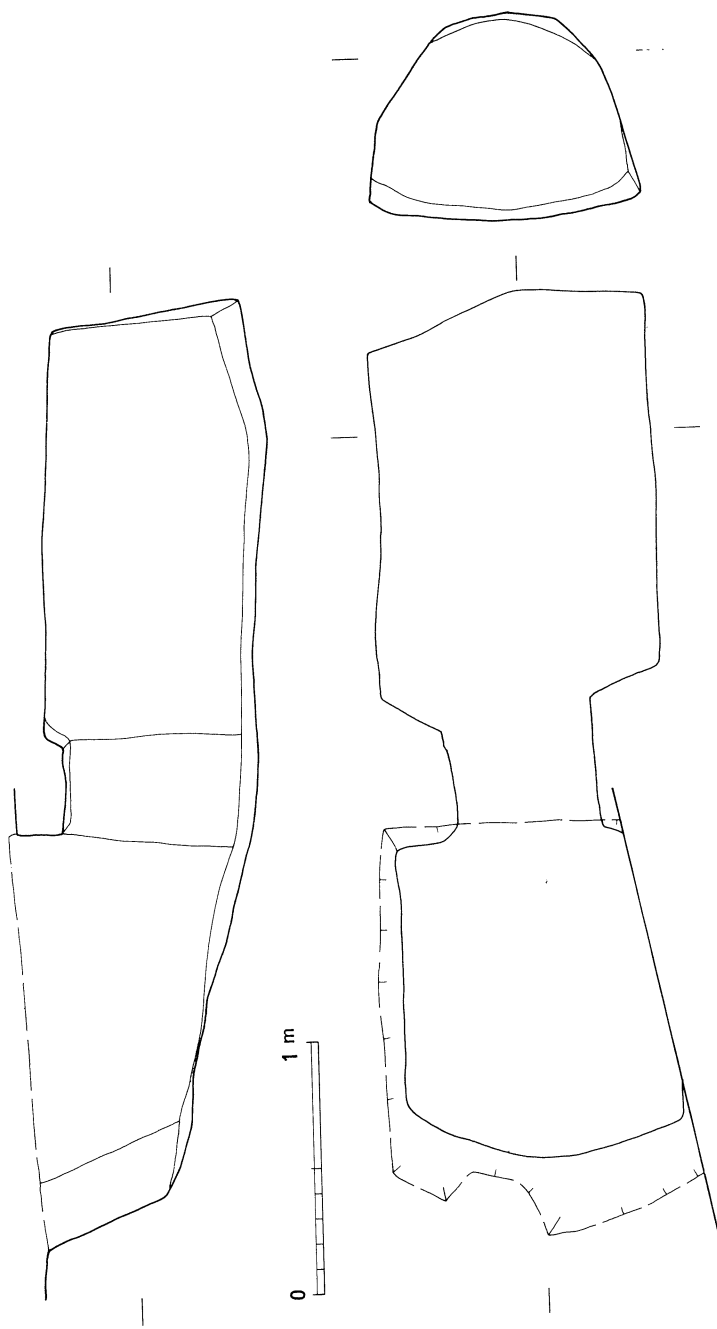
### 1. 遺構

3号地下式横穴墓は貯蔵穴床面の精査時に一部竪坑が牛舎にかかる形で検出されたもので、2号地下式横穴墓の南約20mの地点に所在する。2号とは主軸を直角にする。

玄室は2号同様妻入りの長方形のプランを呈する両袖天井部はドーム形である。玄室の規模は奥行き約160cm幅約110cm、高さ約90cmを測る。羨道は幅60cm、長さ50cm、高さ76~80cmを測り閉塞石等は検出されなかった。竪坑は右壁部分が牛舎によって切られており詳細な規模は確定できないが長さ約140cm、幅110cm、検出面からの深さ50~100cmと竪坑から緩やかに傾斜しながら羨道へ続きが、玄室床面はほぼ平坦に造られている。竪坑から玄室にかけて黒色土が流れ込む形で堆積しており玄室内には黒色土が充満していた。

### 2. 遺物

鉄片が1点出土した。残存長8cmを測る。錆の付着がひどく形状等詳細については不明である。



第6图 2号地下式横穴墓实测图

## 第 3 章 ま と め

### 1. 構造について

今回検出された 2 基の地下式横穴墓はいずれも両袖を持つ長方形妻入りタイプのアーチ形構造の地下式横穴墓である。また、47年発見の久木野 1 号も屍床や棚状施設を持つなど 2 号・3 号とは若干異なる構造も見られるが、基本的には両袖を持ち長方形妻入りの同タイプの形態を示している。このタイプの地下式横穴墓は平野部を中心にその分布が見られる。

### 2. 副葬品について

副葬品について記述すると、久木野 2 号での鉄斧と玉類のセット関係があげられる。県内の地下式横穴墓からの鉄斧の出土は次のとおりである。下北方 5 号（宮崎市）、宗仙寺 8 号・市ノ瀬 5 号・同 10 号・六野原 5 号・同 18 号・同 21 号・木脇塚原 1 号（国富町）、灰ヶ野 1 号（田野町）、雀ヶ野（高城町）、仮屋尾 1 号・横谷原村 1 号（高崎町）、牧ノ原 3 号（都城市）、大萩 B-2 号・同 34 年-1 号・同 36 号（野尻町）、上ノ原 5 号（須木村）、新田場 7 号（小林市）、島ノ内 3 号（えびの市）。いずれも袋状の装着部を持つ鉄斧である。平野部を中心に山間部の各地域に分布している。このうち、玉類との組み合わせで副葬されている例としては下北方 5 号のみで、鉄斧と玉類のみの組み合わせとしては久木野 2 号以外類例は見られない。

### 3. 築造時期について

久木野 2 号・3 号とも時期決定の判断となる遺物の副葬が見えられなかったことから正確に築造時期について言及は出来ないが地下式横穴墓の形態等から 6 世紀前半という大まかな時期をあてておきたい。

#### 参考文献

1. 石川恒太郎「高岡町久木野地下式古墳調査報告」『宮崎県文化財調査報告書』第 17 集 宮崎県教育委員会 1973 年
2. 野間重孝「下北方地下式横穴第 5 号」『宮崎市文化財調査報告書』第 3 集宮崎市教育委員会 1977 年
3. 石川恒太郎「国富町本庄地下式第 22 号古墳調査報告」『宮崎県文化財調査報告書』第 14 集宮崎県教育委員会 1969 年
4. 岩永哲夫ほか「市ノ瀬地下式横穴墓群」『国富町文化財調査資料』4 国富町教育委員会 1986 年
5. 瀬之口伝九郎・石川恒太郎「六野原古墳調査報告」『史蹟名勝記念物調査報告』第 13 輯宮崎県教育委員会 1944 年

6. 田中茂「国富町塚原地下式横穴A号出土遺物」『宮崎考古』3 宮崎考古学会1977年
7. 田中茂「宮崎郡田野町灰ヶ野地下式横穴」『宮崎県総合博物館研究紀要』1 宮崎県総合博物館1973年
8. 岩永哲夫「雀ヶ野地下式古墳発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書』第20集宮崎県教育委員会1987年
9. 石川恒太郎「高崎町仮屋地下式古墳報告」『宮崎県文化財調査報告書』第15集宮崎県教育委員会1970年
10. 石川恒太郎「宮崎県の考古学」吉川弘文館1968年
11. 『日向の古墳展』図録宮崎県総合博物館1979年
12. 茂山護ほか「大萩地下式横穴群」『宮崎県文化財調査報告書』第27集宮崎県教育委員会1983年
13. 鈴木重治「野尻町大萩地下式横穴」『宮崎県文化財調査報告書』第5集宮崎県教育委員会1960年
14. 茂山護「大萩地下式横穴36号発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書』第22集宮崎県教育委員会1980年
15. 茂山護・岩永哲夫「上ノ原地下式古墳発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書』第23集宮崎県教育委員会1981年
16. 栗原文蔵「えびの市真幸・島ノ内地下式横穴」『宮崎県文化財調査報告書』第12集宮崎県教育委員会1967年
17. 『地下式横穴墓から見た古墳時代 資料』宮崎考古学会・鹿児島考古学会1986年



調  
査  
風  
景

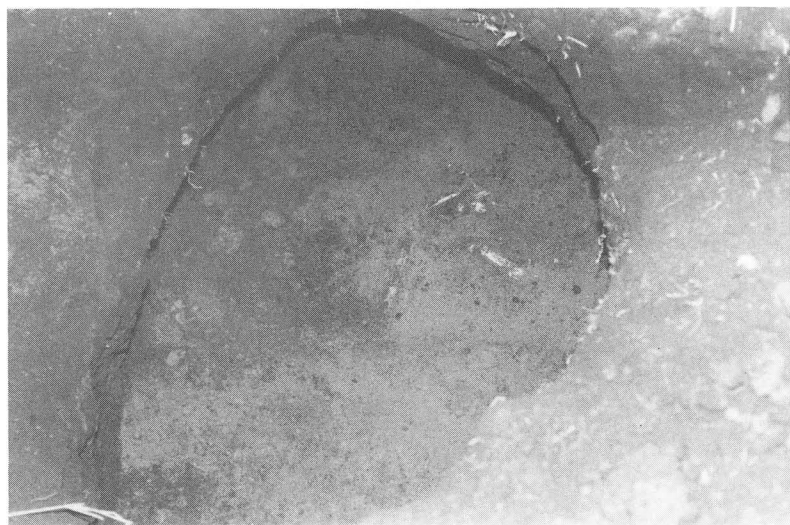


調 査 風 景

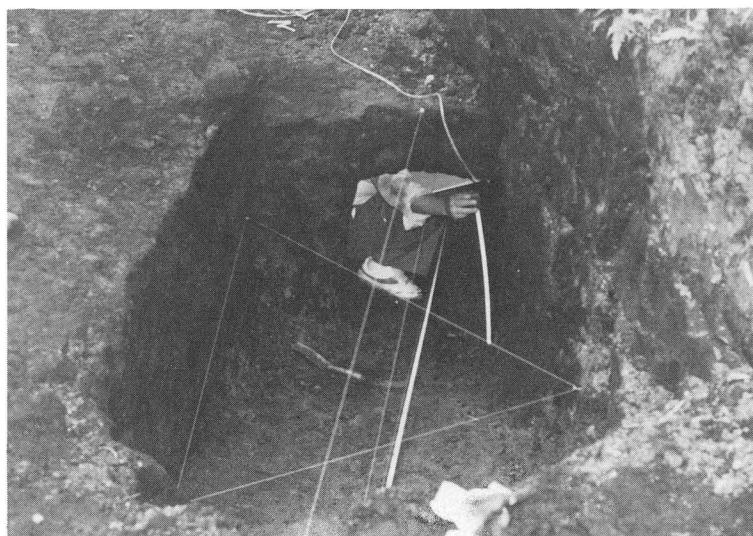




2号地下式横穴墓竖坑



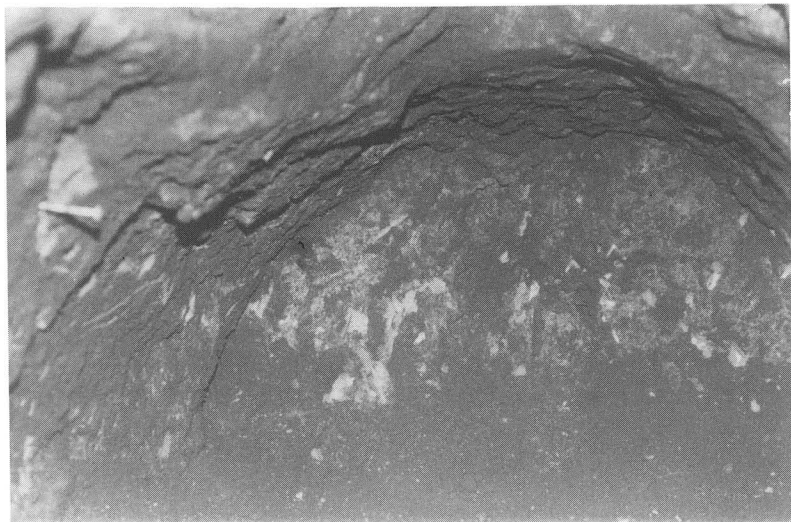
2号地下式横穴墓玄室



3号地下式横穴墓竖坑



3号地下式横穴墓玄室(1)



3号地下式横穴墓玄室（2）

高岡町文化財調査報告書第1集

久木野地下式横穴墓

発行年月日 1991年3月31日

編集・発行 高岡町教育委員会

印刷 株式会社南印刷